



来賓祝辞

総務大臣鳩山邦夫代理

総務省自治行政局過疎対策室長

佐藤 啓太郎 様

ご紹介いただきました佐藤啓太郎です。鳩山総務大臣より祝辞を預かってまいりました。

本日ここに、多くの関係者の皆様のご参加を得て、「全国水源の里シンポジウム in 喜多方」が盛大に開催されますことに心からお祝いを申し上げます。また本シンポジウムの開催にあたりご尽力されました地元実行委員会の皆様、全国水源の里連絡協議会の皆様に深く敬意を表します。

さて、私は自然との共生をことのほか大切に考えております。最近では人口減少高齢化により過疎地域等の集落は大変厳しい状況に置かれておりますが、国土の保全、水源の涵養、貴重な郷土文化の伝承等を考えるとき、水源の里は集落住民の生活の場であるとともに、森林管理や国土保全の役割を担い、地方と都市の双方を支える極めて重要な地域であると認識しています。

このような中「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念のもと、水源の里の再生に向け、今回のシンポジウムが開催されますことは、まことに時宜を得た取組みであり同様の課題を抱えた全国の自治体の皆様、地域住民の皆様にとっても大変有意義なものであると存じます。過疎地域等の集落をとりまく昨今の厳しい状況にかんがみ、有識者からなる過疎問題懇談会におきましては、過疎地域等の集落対策における提言をまとめていただいております。

総務省といたしましては、この提言を踏まえて平成20年度から行政経験者やNPO関係者など地域の実状に詳しい人材を集落支援員として自治体が配置するなどの対策を実施した場合に新たに特別交付税により支援する予定としております。ぜひともこの集落対策について皆様の積極的な取り組みをお願いしたいと思っております。

また、今回のシンポジウムにおきましては「全国水源の里シンポジウム in 喜多方」に設置された新たな過疎対策検討委員会のポスト過疎法にむけて水源の里からの提言についてのご報告があるとお聞きしています。現行の過疎法は平成22年3月末の期限切れまで残り1年5ヶ月となっておりますが、こうした中検討委員会に参画された町村長の皆様、真摯に議論を重ねられ新たな過疎対策に向け提言をおまとめになったことは大変有意義な取組みであると存じます。総務省としましても過疎問題懇談会において時代に対応した新たな過疎対策について議論を行っており、今後もしっかりと検討をすすめて参ります。

最後に水源の里の再生や地域の活性化に向けた皆様方の益々のご活躍をご期待申し上げますとともに皆様方の今後のご健勝をお祈り申し上げ私のあいさつといたします。

平成20年10月28日、総務大臣鳩山邦夫代読。おめでとうございます。



来賓祝辞

福島県知事

佐藤 雄平 様

「全国水源の里シンポジウムin喜多方」の開催にあたりお祝いを申し上げます。本日は北海道から九州まで全国各地からたくさんの皆さんに福島県にいらっしやっただき、心から歓迎を申し上げます。

喜多方市はラーメンとそば、日本酒をはじめ豊かな食文化をもっていることは多くの皆さんがご承知のとおりでございます。それは飯豊連峰の清らかな伏流水をはじめとする豊かな大自然が育んだものであります。まさに水源の里の名にふさわしい土地で、全国各地の皆様にお集まりいただき、ともに話し合うことができますことは、たいへん意義のあることでございます。

当県は昨年単独で国立公園となった尾瀬、四季折々様々な表情を見せる裏磐梯や猪苗代湖、豊富な水量を誇る阿賀川、水質日本一の荒川、さらには日本の原風景ともいうべきのどかな里山が続く阿武隈地域など、豊かな自然や美しい景観に恵まれております。このような美しい国土をしっかりと守りつづけ、人材、食料、水、電力、など大都市に供給し大きく貢献してきたのはまさに過疎、中山間地域であります。そして今や都会では希薄となった人と人との暖かい絆が続いているかけがえのない地域でもあります。しかしながら、これらの地域は人口の減少や急激な高齢化の進行により集落の活力の低下、森林の荒廃などさまざまな課題をかかえ大変厳しい状況にあります。

私は常々地方の発展なくして日本の将来はないと訴えて参りました。今、地方が抱えている課題を解決するため若者の流出を抑え、大都市から人々を呼び戻すべく地域産業の活性化や定住いきいき居住の取り組みなど県の総力をあげて取り組んでいる所でございます。今年度から水源の里など代表される地域コミュニティの再生のため、新たな支援策を創設するなど過疎中山間地域の振興に更に力を注いでいる所です。お集まりの皆さんにも今日のシンポジウムを契機とされ、地域の特性を生かした活力に満ちた地域づくりを一層進められることをご期待申し上げるところでございます。

結びに、お集まりの皆さんの益々のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉と結ばさせていただきます。誠に本日はおめでとうございます。



来賓祝辞

全国水源の里連絡協議会会長

四方 八洲男 様

皆さんこんにちは。喜多方市の白井市長さんを実行委員長としていただきまして、喜多方の関係者の皆さんにずいぶんご尽力を賜りまして、ここに第二回目の水源の里シンポジウムがこのように市内外からみなさんお越しの上で盛大に開催していただきましたこと心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

先程白井市長からも報告でございましたが、昨年の10月に綾部市でシンポジウムをやらせていただいて、その後11月30日に都道府県会館で146の自治体の皆さんに参加をいただいて、この協議会の結成をさせていただきました。以降様々な動きがございました。

1つは146の自治体が今163になったということでございます。さらにまた中山間フォーラム、あるいはまた棚田学会、さらには早稲田環境塾、そして地球緑化センターといった私達と志を同じくする様々な団体の皆様方が、相提携して一緒にやろうと目的を達成するまでねばり強く頑張ろうとお申し出を賜りまして、そういう民間の皆様との連携も広がってまいりました。さらに各地で水源の里にかかわるフォーラム、あるいはまた綾部市は一昨年の12月に水源の里条例を作らせていただきましたけど、米原市、あるいはまた宮崎県日之影町、島根県の邑南町などなどで今、水源の里条例を作ろう、そういう動きがございます。

そうしたことがらを受けながら、自民党の谷垣政調会長あるいは、また、公明党の当時の齋藤政調会長を通じて政府に駆け込みでございましたが、昨年の暮れに様々な要望をもって出かけました。お陰様で平成20年の当初予算に内閣府あるいは総務省、あるいは農林水産省をはじめ各省庁にわたって、この水源の里活性化のための新規の予算を立てていただきました。第一歩でございますから、まだまだ金額的には少のうございますけど、将来に大いに期待をしていただいた所でございます。このように、わずか一年のことではございますけれどもこのような流れをつくり出すことはできた。それはなぜか。まさに今が、この水源の里にとっても天の時だということではないでしょうが、環境問題、あるいは水問題、あるいは森林林業問題などなどこの日本の将来にとって、いや、地球の将来にとって大切な、そうした要素を持っている水源の里を今皆さん方と一緒に再生をして、そして、次の世代に残していく、そういう地域としてとらえ、そして、具体的に行動を起こす、そのことが何より必要だということはずいぶんたくさんの方に理解していただきつつあるということを私は強く感じました。この「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の思想は子供からお年寄りまで全ての国民が共有する、そしてそのことを具体的に実行していく、それがまさに私は現在であり、21世紀の課題であるというふうに思いました。

午前中のこの協議会の総会で、次の点を方針として決めさせていただきました。1つは情報誌「水の源」の年4回発行、これは、これからも堅持してまいります。1年の購読料1000円です。どうぞ、まだの方は定期購読をお願いしたいというふうに思います。2つ目は水源の里の良さというものをたくさんの人に知ってもらう、そのために水源の里に入ってもらい、カメラを向けていただく、そのフォトコンテストを来年の8月31日締切で、目下開催中でございます。どうぞ、これも写真愛好家の皆さん方に呼びかけて応募していただきたいと思います。グランプリは20万円でございます。3番目は水源の里の基金。是非お願いしたいと思います。4番目は先ほど佐藤室長さんもおっしゃっていましたが、平成22年4月から新たな過疎法をつくらねばなりません。そのための検討委員会、今日中間報告をしていただきましたけど、来年早々には最終取りまとめを行い、各政党超党派で要望を行い、そして私たちの思いを法律の中に具体化していきたい。そんなふうに考えております。4番目はそうしたことを踏まえて来年度の予算につきましても、我々は具体的に政府与党等に要望をやっていきたいと思っております。

さらに、この第3回目のシンポジウム、これを島根県の大田市、また邑南町1市1町を中心にしながら開催したいということを決めさせていただきました。来年のことでございますけども、どうぞ皆さん方のご参加をお願い申し上げたいと思います。

終わりにになりましたが、重ねて今日この日までに多大なるご尽力を賜りました白井実行委員長さんはじめ皆様様に心から感謝を申し上げましてお祝いの言葉にかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



来賓祝辞

衆議院議員

渡部 恒三 様

皆さんこんにちは。平成の水戸黄門こと渡部恒三であります。実は私は衆議院議員になって39年目になりますが、国会開会中は土日以外は絶対に国会を離れないということを今日までやってきたんですが、白井市長から今日、水源の里を守るこのシンポジウムにはどうしても出ると命令を受けてしまったので初めて土日以外、国会開会中、国会を留守にしてこの大会にやってまいりました。はじめにお断りしておかなければいけないのはそういうことで、本会議は普通1時から開かれる。しかし今日は特別に衆議院の本会議4時半から開くことにしたのでこの本会議に間に合うために、ご挨拶をしてすぐにご無礼することをお許しいただきたい。

今色々お話があったが世界を相手にして戦争をやって、昭和20年、戦争が終わった。莫大な借金を背負って戦争に負けた日本がどうして今日を迎えることができたか。資源エネルギーのない日本、地球人類の中で100分の1の面積しかない日本が。理由はたった一つ、我々の先輩達があの戦争中、若い者がいない時でも残された子供たちが、年寄り達が山をしっかりと手入れして守ってきたからなのであります。となりの朝鮮半島は、はだか山、中国もはだか山だ。ところが戦争に負けた日本、北は北海道から九州、沖縄まで緑が守られてきたんです。皆さん、今度世界を歩いたときに考えてみて下さい。アメリカ大陸を飛行機で飛んでも下を見ると半分が砂漠。飛行機で下を見て全部緑なのは日本しかありません。日本は資源エネルギーはないけれど、水は世界で一番きれいで、安心な水に恵まれているということで、水力発電所がエネルギーになって戦後の経済復興をしている。水が安心して暮らせる国日本ということでアメリカと肩を並べる所の日本になってきたのです。

ところが、この日本が今日まで戦後63年をどう生きてきたかということ、最近の国民の皆さんは忘れつつある。これは私大変心配をしています。今、TVや新聞を見ると皆さん朝から晩まで円高株安で、明日日本がつぶれてしまうような騒ぎをしておりますけれど、冷静に考えると円高というのは一言で言えば今まで外国に100円で売るといっていたものが70円で売らなくちゃいけない、貿易をやるのは大変だ、ということになる。一方、別次元で考えれば日本は資源エネルギーのない国、食べ物までも60%も外国から買ってこなくちゃならない国、外国から買ってくるものは、今まで100円で買っていたものが70円で買える話なんですから長い目で日本の未来を考えると、円が世界の中で一番高くなる。決して日本の未来にとって大変な問題じゃありません。

何よりこの国の将来を考えて大変なことは、残念ながら緑を今日まで守ってきたふるさとを守り国を守ってきた地域の人たちが生活できなくなって、限界集落などというありがたい名前ができてしまったことを私はこの国の未来のために一番心配をいたします。自由主義経済の国ですから、そろばんのあわない仕事を国のためにやれといっても無理です。

私なんかは、自分のことを言って申し訳ないが、親父やじいさんが一生懸命山に木を植えて山を守ってくれたおかげで、杉の木を売り県議会議員になり、山を売って国会議員になり大臣を4つも勤めることができました。今、皆さん明日に希望がありますか。汗を流して一生懸命山で働いて造林して息子を

県会議員に立候補させる費用になりますか。やっぱり、山に生まれ育った若者達が「おれは山を守っていくんだ」と誇りをもつと同時に、かわいい息子や孫達もこの山を守ってあげれば将来暮らしができる、生活が守れる。という条件にしてあげなければ、これは日本の将来は駄目になってしまいます。さっき会長さんにも話したが、私はエネルギー問題（第一次オイルショックのとき）に水力発電所をもっている市町村に特別に交付金を差しあげることにして、それを地域の発展のために役立てていただくことをしたことは、本当にいいことをしたと思っております。

ところが、石原慎太郎君が東京の税金を地方に使うのは間違いだ、なんてことを言ったので私は石原君に会った時「君が小泉君に東京に集まった税金を地方に使わないようにと言った話は新聞で見た。君がそういう考えならば、俺も福島県に帰って水力発電はもとより原子力発電の電気を一切東京に送らないようにしちゃう」と言った。福島県の双葉郡で今作っている原子力発電所の電気で、東京の皆さんが生活しているのですから、明日から東京の者はテレビも見れないし、冷蔵庫も使えない、暖房も冷房も使えない、ああ東京ではとても暮らせない、地方に引っ越そうとなれば過疎・過密の問題が解決する。それ以降、石原君はそれを言わなくなった。

これは、皆さん私が過疎地域の生まれだからということではなくて、国民全体として、この日本が世界で一番優れているのは、我々のおじいちゃんおばあちゃんが苦勞して植林し、造林して山を守ってきたからだ。その緑を守る人達が豊かな生活をできるような状況をつくるのが、この国にとって一番大事だ。ということを考える政治をやらなければ、明日の日本はない。と私は真剣に今、考えておるのです。今日は、水の里を守ろう、水源地であることに誇りを持った関係の市町村の皆さんが、我がふるさと会津に、しかも蔵のまちとして、日本一の喜多方においていただいたこと心から歓迎し、皆さんとともに「やっぱり東京に生まれるより、この緑のふるさとに生まれてよかった」と子供達に思ってもらえるような日本をつくるために、皆さんと力一杯頑張っていくことをお誓いして、お祝いのご挨拶にさせていただきます。皆さんおめでとうございました。